# **サバニ帆漕レース　2014年版　ルールブック改定条項　一覧**

1. **基本原則**

**４．参加資格（2）乗組員の確保**

**交代要員を含めて1チームにつき、最低2名～最大６名の乗組員を確保しているチームであること。**

1. **艇体・偽装及び装備**

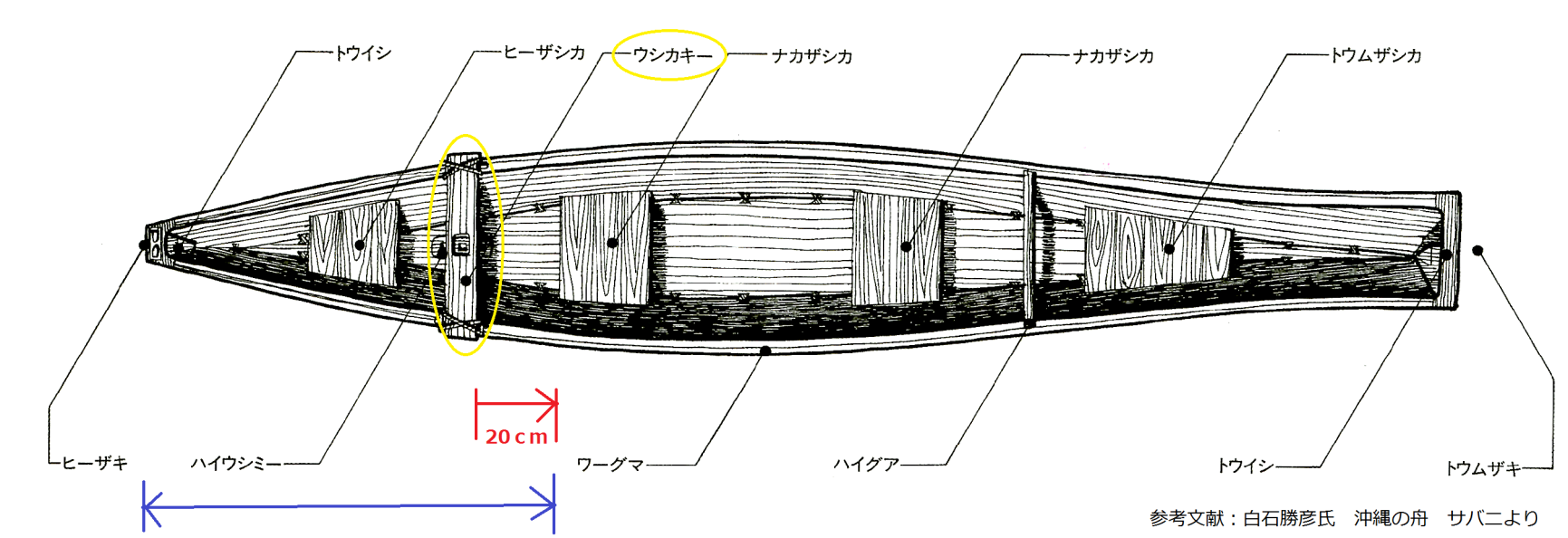
**５．艇体　　（2）規模**

**艇の大きさは、全長4,5～9ｍ以内、全幅１,５ｍ以内であることとする。**

**（3）構造**

**カーラの装置について**

**カーラは舳先の先端からハイウシミーの後ろ20センチまで。深さは20センチ以内。**

****

**６．艤装**

**（１）帆柱（マスト）**

**材質は木または竹の無垢であること。（単体であること）**

**帆柱（マスト）は2本まで可能。ただし、２本目の弥帆（ヤホ）は主帆の前に取り付けること。**

**１本の帆柱（マスト）に対して帆は１枚でなければならない。**

**弥帆（ヤホ）の帆柱（マスト）の長さは主帆の７割以下であること。**

****

**主帆**

**弥帆（ヤホ）**

**帆柱（マスト）の補助、補強の禁止**

**船体と帆柱（マスト）のトップや途中から繋ぐなど、マストの補助あるいは補強の目的で、ロープ等を使用してはならない。（サイドステイやバックステイの役目の禁止）**

**帆柱（マスト）の形状**

**強化のためにグラスファイバーやそれに準ずるものを使用してはならない。**

**（エポキシ樹脂の使用は禁止だが、ニスの使用は許容範囲とする）**

**（２）帆**

**①材質は木綿またはダクロンでなければならない。（繊維であること）**

**サイズについて。最大のサイズの設定は２枚の合計サイズが縦５ｍ以内、横**

**３,５ｍ以内とする。**

**（最大の面積の５０％を超えないこと。）**

**（３）帆桟（フーザン）**

**②１枚の帆に対して帆桟の数は、主帆は５本以上、弥帆は４本以上装置されていること。**

**状況によって縮帆することはかまわない。又、予備の帆を持つことも自由である。**

**７．装備**

**（１）エーク**

**T型グリップはいずれのクラスにも使用は認められない。**

**（２）安全備品**

**『救命胴衣』は第４章で着用を義務付けられているので削除。**

**『雑索などで固縛』の文言も削除。**

**第５章　レース終了後の規定**

**（３）艇種別クラス分けと順位**

**本レースでは「第２章　艇体・艤装及び装備」に規定された範囲内において、艇の種類別に以下のクラス分けをし、それぞれの順位をとる。**

**クラス名の変更、**

**古式サバニ→サバニクラス**

**艇体は木造、帆柱は無垢の木または竹、帆は規定の範囲内の材質で、かつアウトリガー、舵を装備していない伝統的なサバニ。**

**アウトリガー付きサバニ（伝統サバニ）→ニーサギクラス**

**艤装及び、装備がすべて第２章の規定範囲であるが、アウトリガーを付けているサバニ。かつ上記に該当しないクラス。**

**（ニーサギとはウチナー口で、古来より使われれていた言葉、船体の傾きのバランスをとるための重しなどを付ける（荷を下げる）の意味があります。）**

**２３．表彰**

**本レースの表彰は、クラス別にそれぞれ上位３着までとする。サバニクラス１着のチームに沖縄県知事賞が授与され、ニーサギクラスにはピーターブレイク賞等が授与される。**

**その他、特別賞が設けられている。**

**例：宮崎県日南市長杯（飫肥杉カップ）、スポンサー賞など。**